

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	株共壽 グループホームホーム海津「福寿苑」
(ユニット名)	西ユニット
所在地 (県・市町村名)	岐阜県 海津市 海津町 福江 627
記入者名 (管理者)	森田 サヨ子
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	平成19年度に独自性のある運営理念に改正した	平成19年度に外部評価を受けた際、ご指導頂き改正した
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関ロビーや事務所等に理念をかかげ、会議等にも職員一同で唱和することで、意識付けを図っている	理念や心得を実践できているかを評価する機会をつくる等の取り組みを行っていきたい
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族においては、たよりや写真等の配布で地域に根付いた暮らしをアピールしている。地域住民の方がホームを見学に来た際は事業所の役割についても説明させていただいている	運営推進会議等の機会にも、より理解していただける工夫をし、地域と交流できる場を拡大していきたい
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所に民家は少ないものの、気軽に声をかけ合える関係が築けるよう努めている	近所の美容院や喫茶店を利用する事により、地域の方とふれ合う機会をつくるよう心がけている
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	毎年、地域で行われている夏祭りの参加。ボランティア団体との交流等、地元の人と交流することに努めている	地域の一員として、当ホームが取り組める事はないか 今一度検討していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症について・介護予防についての勉強会を地域内事業所を招いたり、実習生を受け入れる等の人材育成に取り組んでいる		地域の一般市民の方を対象にした相談や、勉強会の企画をしていきたい
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員会議で報告し、改善策を立てて検討した		検討内容を実践できたこと、実践不十分な点を明確にし、今後の更なる課題に取り組んでいきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、利用状況やサービス内容等の報告・家族や住民の方の意見を職員会議時に伝え、その後のサービス向上に活かす努力をしている		運営推進会議で出された貴重な意見をホームのサービス向上に活かしていく努力を続けていきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携において、極力FAXではなく、高齢福祉課に出向き、行き来するよう心がけている		今後も市町村担当者と情報や考え方の共有化を図るよう心がけていきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員ともに権利擁護の研修に出向き、学ぶ事ができた		制度の適応となるケースがあった場合は、活用出来るよう支援していきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んだことを職員とも勉強会を行い、虐待防止に努めることができた		職員ひとり1人の虐待に対する意識が薄れないよう、今後も継続的に評価していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者様や家族の思いを踏まえた上で、事業所として出来ること・出来ないことを明確にし、ご理解・納得して頂く。安心して利用頂けるよう細心の注意を払っている。</p>		<p>契約・解約前には出来るだけゆとりをもって話し合える時間・場所が確保出来るよう、配慮していきたい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置。認知症である利用者様の思いをくみ取り、サポートしていけるよう心がけている</p>		<p>利用者様から出た不満や意見等が職員に周知でき、日々のケアに活かしていけるよう、申し送りや記録の記載に取り組んでいる</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が訪問された際は、暮らしぶりを報告するよう心がけている。来訪の少ない方においては、個々に写真や手紙にてお知らせしている</p>		<p>家族に対して、介護記録の閲覧をした際にサインを頂くような体制を取り組んでいきたい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員同士・家族が意見を気軽に伝えやすいような雰囲気作りに配慮し、それぞれの家族の思いを理解した上でケアに反映できるよう心がけている</p>		<p>今後もそれぞれの家族の立場に立って理解するよう努め、どうケアに活かしていくかをその都度話し合っていきたい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や食事会の機会を利用し、職員の意見を聞いてもらっている</p>		<p>日頃より、職員が意見を言いやすい関係を築けるよう心がけている</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の状況に応じて柔軟にシフトを調整したり、ユニット間の協力体制も整えている</p>		<p>シフト上、職員が無理なく勤務できるよう配慮しながら、柔軟な対応も出来るよう努めていきたい</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様のダメージを考慮し、異動や離職は最小限に抑えるよう配慮している</p>		<p>当法人において事業拡大に伴う人事の異動は、利用者様へのダメージやケアの質を念頭におき、慎重に検討していきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所と共に勉強会をする企画を実施したり、全体会議の中で研修報告をしている	今後も、今職員にとって必要な知識は何か。職員のモチベーションの確保等、常にケアの質の向上に繋がるタイムリーな学習ができるよう進めていきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の事業所等との勉強会や、運動会等のイベント参加を通じて、サービスの質の向上への取り組みをしている	職員育成に役立つ企画を考え、ネットワークづくりに配慮していきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常日頃より、職員の体調やストレスを把握するようコミュニケーションを図る等に努めている	職員の声を聞きながら、職員が心身共に休める空間づくりに配慮していきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	適宜、自己評価チェックをしたり、目標を掲げてもらうことで、それぞれの職員の向上心・やりがいをを持って働けるよう取り組んでいる	日々の仕事が常務の流れ作業的にならないよう、各自の働きぶりを客観的に評価し、サポートしていけるよう努めていきたい
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には極力本人にも訪問していただき、納得・安心して入所していただけるよう信頼関係を築けるよう努めている	事前面談では、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、受け入れるよう努めていきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をしっかり聴き、御要望に添えるケアを提供出来るように、当ホームにおける対応システム等を説明し、安心して頂けるよう努めている	家族が求めているものを理解し、事業所として事前に話し合い、信頼関係を築くことに繋げていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族の事情や要望を基に、状況等を確認し、ホームの良好な受け入れ体制の時期の調整・他のサービス利用についても検討し、対応している		可能な限り、柔軟な対応を行い、他の事業所のサービス内容等の状況等を把握し、必要に応じて他の事業所のサービスに繋げていきたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学に来て頂いている。入所時の不安の程度を考慮し、ご家族や友人に来てもらい安心感を持ってもらうようにしている		入所前からホームに馴染みながら安心して、納得して頂けるよう配慮していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしている暮らしの中で喜びを共感し、職員が利用者様から優しい言葉で労ってもらう場面もみられる		利用者様と職員がお互い様という気持ちや感謝するという関係を築き、共に支え合える関係を保てるよう心がけていきたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所前の自宅での暮らしぶりや家族の思いに寄り添いながら本人と一緒に支えるために家族とも支える関係を築く努力をしている		利用者の様子や職員の思いを伝えることで、本人を支えていくための協力関係を築いていきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の来訪時、日々の状態をこまめに報告する。行事に家族を誘いよりよい関係の継続に努めている		家族と利用者様の絆を大切に、両者の思いが結びつくような働きかけをしていきたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で連絡を取り持ち、大切にしてきた人との関係が途切れないよう支援している		ひとり1人の生活習慣を大切にしていきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係が上手くいくように、心身の状態や気分・感情の変調を把握しながら、注意深く見守るようにしている		利用者様同士の関係や個性をうまく活かし、職員が調整役となって支援していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が中止になっても、状況に応じ、家族からの相談にのっている		終了後も、ご利用中に培った関係を大切にしながら、事業所として継続的なサポートをしていきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で行動や表情から真意を察するよう努めている		「本人の思いはどうか」という視点を忘れず、取り組んでいきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、本人や家族から具体的な情報を伝えて頂けよう努めている		その方独自の生活歴やライフスタイルの把握に努めていきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者ひとり1人の生活のリズムを理解し、記録に残して、その方の全体像の把握に努めている		出来ないことより、出来ることに注目し、その方の状況把握を継続的に支援していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様をご自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を聴き、チームスタッフでも話し合う等、介護計画の作成に活かしている		本人・家族・スタッフの意見や気づき、アイデアを話し合い、本人がよりよく暮らす支援計画の作成に取り組んでいきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体機能の低下時等、その時の状況に応じたケアを記録し、プランの変更・見直している		利用者様の変化の兆しに、予防的に対応していくための計画を見直し、現状に即した計画の立案がされているかを検討していく習慣づけを図っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録により、職員間で情報を共有し、利用者様の状況を把握している。変化があったときは申し送り(申し送りノート・口頭)を実施している		よりよいケアに向けて、情報の共有を徹底し、記録の充実に取り組んでいきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて、通院や外出・外泊の送迎や引率等の支援を行っている		当事業所ならではの臨機応変な対応を目指し、個別の要望に応えられるサービスを提供していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方とは、運営推進会議を通して利用者様の暮らしぶりをお伝えしている。公共機関へ外出する機会もある。		警察・消防との連携がもっと密に図れるよう努めていきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域内で活動しているボランティア団体に演芸を披露していただいたり、近隣の美容院より訪問サービスを受ける等、利用させて頂いている		左記の他にも生活支援に結びつくサービスを受けられるよう、支援内容を拡大していきたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日頃より、地域包括支援センターに出向く等の交流を図り、情報交換や協力関係を築くよう取り組んでいる		地域で暮らす認知症の方を支援出来るようセンターとの連携をはかりながら当ホームにできることを考えていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、必ず希望の医師を確認し、状況に応じた治療が受けられるよう支援している		日頃より、協力医との連携を図り、積極的に通院介助を行う等のサポートする体制を継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医や専門医と連携を図りながら、利用者様個別に支援している		治療のリスクやその後の暮らしぶりを見通したケアが提供出来るよう、本人・家族の思いに配慮した支援を心がけていきたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理を行っている。看護師不在時にも24時間、連携をとれる体制を確保している		利用者様の身体や認知症が重度化していく中で、介護職員の判断・対処の力を育てると共に、介護と看護の密な連携を図る努力を続けていきたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は身の回りの支援を含めたサポートを提供し、早期退院ができるよう、また退院後も適切なケアが提供できるよう、情報収集する等に努めている		入院中のダメージを最小限に抑える。また、退院後安心して暮らす環境ができるよう、左記の体制を継続していきたい
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りにおける意志確認書を作成し、「当ホームができるケア」について説明を行っている		家族、主治医と連携を図りながら、全員で方針を共有していく努力を行っていきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者様をケアしていく上での本人・家族の思い、医療との連携、職員の「最後まで見届けよう」という意欲等、最前の体制作りをした上で支援できるよう対応している		1ケース・1ケース、様々な看取りを経験させていただくことで、人を敬う心・介護の価値を感じることでできるスタッフの育成。安らかな日々を1日でも多く過ごして頂き、家族からご納得いただけるようなチームケアが提供できるホームであるよう取り組んでいきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	近年、別の場所へ住み替えられるケースは殆どなかった		別の場所へ移ることのメリット・デメリットを本人や家族と共に話し合いながら、きめ細かい連携を心がけていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全体会議の折りに、ひとり一人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉・さりげない言葉かけや対応について話し合っている</p>	<p>適時、接遇に対する自己の振り返りを行い、利用者様の人権を損ねない対応の徹底をしていきたい</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様に合わせてゆっくり丁寧に言葉掛けし、表情から読みとったりしてご本人が選びやすい場面・自己決定できる場面づくりを心がけている</p>	<p>日々の生活の中で、ひとり1人の利用者様が自己決定できる場面づくりを積極的に支援していきたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様の体調に配慮しつつ、本人のペースに合わせて散歩・リクレーション等の支援をしている</p>	<p>本人が今どうしたいのか、どう過ごしたいのか、利用者様のペースを大切に見守りたい</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みの美容院に来設してもらっている。鏡を見ながら本人の気持ちに添った言葉掛けをしている。又、洋服を選んでもらったりしている</p>	<p>その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、言葉掛けや見守りの支援に努めていきたい</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を楽しんで頂くために、本人の好みに応じた食材や調理方法を取り入れて、栄養の偏りがないよう工夫をしている。職員も一緒に楽しく食事している</p>	<p>今後も左記の内容に取り組んでいきたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>1人ひとりの嗜好品を理解しており、病状等を踏まえて、楽しんで食べて頂けるよう支援している</p>	<p>その方の病状に合わせて、好きなものを、楽しんで頂けるよう支援していきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとり1人の排泄行為におけるサインを全職員が理解し、排泄チェック表にて排泄パターンを把握しながら、さりげなく誘導することを心がけている		繊細な本人の心情をくみ取りながら、本人の残された機能が維持出来るよう支援していきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひとり1人の意向を第一に、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している		今後も左記の内容に取り組み、安全・安心を心がけていきたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠状況や体調を考慮し、ゆっくり休息がとれるよう支援している		今後も左記の内容を取り組んでいきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様に応じてお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。アプローチシートを活用し、出来ることを把握して話し合い、実現に向けている		アプローチシートの項目を見直しながら、本人の喜びや生き甲斐に繋がるよう支援していきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族とよく話し合い、安心感・満足感に配慮し希望や力量に応じてお金を所持し、使える様に支援している		今後も左記の内容を取り組んでいきたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はスタッフと共にホームの外を散歩したり、日光浴等の気分転換ができるよう支援している		本人にあわせた外出内容に配慮しながら、五感刺激を得られるような支援を実践していきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を肌で感じて頂くためにも、チュウリップ・桜・コスモス・紅葉を見学に出かけている。家族の方へ参加の案内も発送している。個別の外出時には、体調管理にも配慮しながら、支援している。		利用者様の希望に応じた外出を積極的に支援していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて支援している		利用者様の希望に応じて柔軟に支援していきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問はいつでも訪ねて来ていただき、笑顔で挨拶し出迎えるよう心がけている。ゆったりとした環境の中で心地よく過ごしていただけるよう心がけている		他の利用者様にも気兼ねなく過ごしてもらえるよう心地よい空間づくりを心がけていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員の意識付けを図り拘束のないケアに取り組んでいる		その日のケアを振り返り自覚していない拘束が行われていなかったか、身体拘束への意識付けをしていきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ出たい気配を感じたら、必ず言葉掛けをし、一緒に付き添っている。安全性と束縛感に配慮しながら利用者様がいかに窮屈な思いをせずに暮らしていただくかという視点でケアに取り組んでいる		職員のチーム連携を図りながら、左記の内容に取り組んでいきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者様と同じ空間で記録等を行い、日中は必ずフロアで職員が見守っている。夜間帯も守りやすい場所で待機し、24時間、利用者様の安全に配慮している		今後も利用者様が安心して、安全に暮らせる環境づくりを目指していきたい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状況に合わせて、注意の必要な物品(薬・石鹸等)について保管、管理を行っている		注意が必要な物品が何かを十分に検討し保管・管理の方法を再確認し、徹底していきたい
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一の災害が起こった場合、現在入所の利用者様の状況に応じて職員でシミュレーションを行っている。ひとり1人の状況から予測される危険を検討し、未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。		事故を未然に防ぐための工夫や対応を意識づけ出来るよう情報交換したり、勉強会も行っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者様の急変の対応は会議でも話し合い、スタッフが迅速に動けるよう意識管理は怠らない様に取り組んでいる。消防署にて蘇生法や初期対応についても講習を受けている		今後も左記の内容を定期的に取り組んでいきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の通報・連絡方法や避難経路の確認を会議等で行っている方法が的確かどうか話し合っている		地域の方達の協力を得られる関係づくりをしていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	1人ひとりの予測されるリスクについて把握しており、家族に対応策を説明している		安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしを支援するために家族と話し合いながら支援していきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な表情の変化も見逃さないよう、スタッフ間の申し送りや体調の善し悪しを確認したり、記録に残す。看護師に報告し、対応も行っている		体調の変化を見逃さない様、知識と観察力を向上させ、早期発見に心がけていきたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬内容について把握できるよう見やすい所に処方箋が設置してある。服薬時は職員が必ず見守り・介助し確認している		適切な服薬支援を心がけていきたい
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防にむけて、食材の工夫や、運動・マッサージを促し、出来るだけ薬に頼らないで排便できるよう取り組んでいる		1人ひとりの暮らし全体の中で、自然排便を促す工夫をしていきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、個々の力量に応じた、又、羞恥心に配慮した口腔ケアの支援を行っている		利用者様の力を引き出しながら、口腔内の清潔保持ができるよう努めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し情報を共有し管理栄養師に指導を受けたり健康診断等で栄養状態について把握できるよう努めている		今後も利用者様ひとり1人の1日のおおよその量を把握しながら支援していきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルがしょくいんの見えやすい所に設置してある。季節・地域の感染症発生状況に対応し、手洗い・マスクの装着の徹底をしている		感染症に対する予防と早期発見・対応に努めて、常に新しい知識・技術によって向上していきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やフキンは毎晩、漂白し清潔に心がけている。残ってしまった食材が無駄なく新鮮な内に使用出来るよう、心がけている		今後も左記の内容に取り組んでいきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように花を生けたり、季節感を演出したり工夫している		今後も左記の内容に取り組んでいきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる場所として、音や香り、生活感や季節感のあるものを取り入れる工夫をしている		利用者様1人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、居心地のよい環境を整えていきたい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先、ロビー・リビング等に椅子を置き、一人で過ごせるスペース。利用者様同士でくつろげるスペースを作っている。		思い思いに過ごせるような居場所を更に工夫していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切に、部屋全体が落ち着いた色合いのものを使用している。使い慣れたものや好みのものを活かし居心地よく暮らせる工夫をしている		今後も本人や家族と協力しながら居心地のよい居室づくりに取り組んでいきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングの環境に注意し、居室やトイレには換気や脱臭が設置されている。又、温度計・湿度計も設置している		換気・空調への配慮は職員が配慮し対応している
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	加齢に配慮し、ユニバーサルデザインを基本とし、利用者様の状態に合わせて住居環境を整えている		1人ひとりに対して、安全確保、自立に向けた支援が出来るよう工夫していきたい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の混乱を招くような環境の原因に対して、職員間で話し合い不安材料を取り除き、対応策を見出せる努めている		定期的・臨時的に左記の内容を記載し合いながら、それぞれに合わせた工夫をしていきたい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴が出来るよう心がけている。楽しめるような花を植える。洗濯物を干したり、取り入れたり、畑で土に触れる活動もしている		目で、耳で、手で、感じられるような活動がもっと出来るよう工夫していきたい

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別性を踏まえ、皆がよみやすい介護記録の様式作りに取り組んだ。

ケアプランと実践したケアが結びつき、ケアの内容をモニタリングすることで、より利用者様に適したケアとは何かを考えながら、サービスを提供していく。というプロセスを意識して取り組んでいる。

また、介護の現場に携わる上で必要な倫理を含めた勉強会を行う事によって、職員全体の力量が向上できたと考え、重度者を抱える西ユニットの職員において、特に信頼関係のあるチームの連携づくりが大切であるため、様々な取り組みによってチームケアが成り立っている。今後も残された課題に対し、前向きに取り組んでいきたいと思う。